

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第6802248号
(P6802248)

(45) 発行日 令和2年12月16日 (2020. 12. 16)

(24) 登録日 令和2年11月30日 (2020. 11. 30)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 81/36 (2006.01)

F I

B 6 5 D 81/36 S

B 6 5 D 81/36 Z

請求項の数 6 (全 24 頁)

(21) 出願番号	特願2018-248661 (P2018-248661)	(73) 特許権者	508049167
(22) 出願日	平成30年12月28日 (2018. 12. 28)		中 澤 將
(65) 公開番号	特開2020-109007 (P2020-109007A)		東京都練馬区高野台二丁目10番3号708
(43) 公開日	令和2年7月16日 (2020. 7. 16)	(74) 代理人	100085040
審査請求日	令和1年10月18日 (2019. 10. 18)		弁理士 小泉 雅裕
早期審査対象出願		(72) 発明者	中澤 將
			東京都練馬区高野台二丁目10番3号708
		審査官	杉田 剛謙

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パッケージ及びこれを用いたパッケージ製品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

郵送対象物が収容されるパッケージであって、
前記郵送対象物の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形形状の表裏一对の被覆材と、
前記一对の被覆材間に前記郵送対象物が収容可能な空間部を確保するように前記一对の被覆材の周辺全域を覆う周辺被覆帯と、を備え、
前記一对の被覆材及び前記周辺被覆帯は一枚のパッケージシートを裁断して前記一对の被覆材と前記周辺被覆帯とが接続するように作製され、前記一对の被覆材間を前記周辺被覆帯にて被覆するように立体的に組立可能であり、
前記周辺被覆帯は、前記一对の被覆材の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切り取り可能に接続する切り取り被覆帯部と、当該切り取り被覆帯部以外の少なくとも一辺に沿う領域と切り取り不能に接続する残存被覆帯部とを有し、
前記一对の被覆材は、少なくとも一辺全域が前記残存被覆帯部を介して接続され、前記切り取り被覆帯部で被覆される領域に沿う一辺の両隅又は片隅には前記切り取り被覆帯部と接続しない曲面状の面取り部を有し、
前記切り取り被覆帯部を切り取ることで開封し、前記切り取り被覆帯部を切り取った後のパッケージ残部が前記郵送対象物の一部を兼用することを特徴とするパッケージ。

【請求項 2】

郵送対象物が収容されるパッケージであって、
前記郵送対象物の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形形状の表裏一对の被覆材と、

10

20

前記一対の被覆材間に前記郵送対象物が収容可能な空間部を確保するように前記一対の被覆材の周辺全域を覆う周辺被覆帯と、を備え、

前記一対の被覆材及び前記周辺被覆帯は一枚のパッケージシートを裁断して前記一対の被覆材と前記周辺被覆帯とが接続するように作製され、前記一対の被覆材間を前記周辺被覆帯にて被覆するように立体的に組立可能であり、

前記周辺被覆帯は、前記一対の被覆材の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切り取り可能に接続する切り取り被覆帯部と、当該切り取り被覆帯部以外の少なくとも一辺に沿う領域と切り取り不能に接続する残存被覆帯部とを有し、

前記一対の被覆材は、少なくとも一辺全域が前記残存被覆帯部を介して接続され、前記切り取り被覆帯部で被覆される領域に沿う一辺の両隅又は片隅には前記切り取り被覆帯部と接続しない曲面状の面取り部を有し、

前記切り取り被覆帯部を切り取ることで開封し、前記切り取り被覆帯部を切り取った後のパッケージ残部のうち表裏一対の被覆材の全部若しくは一部は、前記パッケージ残部の内面側を外面側に露出させて前記郵送対象物の付属品として利用されることを特徴とするパッケージ。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載のパッケージにおいて、

前記周辺被覆帯は、前記一対の被覆材の周辺の一辺に共通の張り出し帯片を形成すると共に、他の辺の全部若しくは一部には個別の張り出し帯片を形成し、前記張り出し帯片と前記被覆材との接続部を折曲可能にすると共に、前記個別の張り出し帯片のうち相対向する部位に相互に存在するものについては相互に貼り合わせ、いずれか一方に存在するものについては対向する被覆材に貼り合わせて封止し、前記切り取り被覆帯部については前記被覆材との境界部に沿って切り取り可能なミシン目を形成することを特徴とするパッケージ。

【請求項 4】

請求項 3 に記載のパッケージにおいて、

前記パッケージのうち少なくとも前記ミシン目を含む領域はポリプロピレン樹脂、ポリエチレン樹脂又はこれらを主成分として含む合成シートを基材とし、前記切り取り被覆帯部のミシン目は 0.3 mm 以下のカット長、0.2 mm 以下のノンカット長のマイクロミシン加工にて加工されていることを特徴とするパッケージ。

【請求項 5】

郵送対象物と、当該郵送対象物が収容されるパッケージとを備えたパッケージ製品であって、

前記パッケージは、前記郵送対象物の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形状の表裏一対の被覆材と、

前記一対の被覆材間に前記郵送対象物が収容可能な空間部を確保するように前記一対の被覆材の周辺全域を覆う周辺被覆帯と、を備え、

前記一対の被覆材及び前記周辺被覆帯は一枚のパッケージシートを裁断して前記一対の被覆材と前記周辺被覆帯とが接続するように作製され、前記一対の被覆材間を前記周辺被覆帯にて被覆するように立体的に組立可能であり、

前記周辺被覆帯は、前記一対の被覆材の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切り取り可能に接続する切り取り被覆帯部と、当該切り取り被覆帯部以外の少なくとも一辺に沿う領域と切り取り不能に接続する残存被覆帯部とを有し、

前記一対の被覆材は、少なくとも一辺全域が前記残存被覆帯部を介して接続され、前記切り取り被覆帯部で被覆される領域に沿う一辺の両隅又は片隅には前記切り取り被覆帯部と接続しない曲面状の面取り部を有し、

前記切り取り被覆帯部を切り取ることで開封し、前記切り取り被覆帯部を切り取った後のパッケージ残部が前記郵送対象物の一部を兼用することを特徴とするパッケージ製品。

【請求項 6】

郵送対象物と、当該郵送対象物が収容されるパッケージとを備えたパッケージ製品であって、

前記パッケージは、前記郵送対象物の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形状の表裏一対の被覆材と、

前記一対の被覆材間に前記郵送対象物が収容可能な空間部を確保するように前記一対の被覆材の周辺全域を覆う周辺被覆帯と、を備え、

前記一対の被覆材及び前記周辺被覆帯は一枚のパッケージシートを裁断して前記一対の被覆材と前記周辺被覆帯とが接続するように作製され、前記一対の被覆材間を前記周辺被覆帯にて被覆するように立体的に組立可能であり、

前記周辺被覆帯は、前記一対の被覆材の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切り取り可能に接続する切り取り被覆帯部と、当該切り取り被覆帯部以外の少なくとも一辺に沿う領域と切り取り不能に接続する残存被覆帯部とを有し、

10

前記一対の被覆材は、少なくとも一辺全域が前記残存被覆帯部を介して接続され、前記切り取り被覆帯部で被覆される領域に沿う一辺の両隅又は片隅には前記切り取り被覆帯部と接続しない曲面状の面取り部を有し、

前記切り取り被覆帯部を切り取ることで開封し、前記切り取り被覆帯部を切り取った後のパッケージ残部のうち表裏一対の被覆材の全部若しくは一部は、前記パッケージ残部の内面側を外面側に露出させて前記郵送対象物の付属品として利用されることを特徴とするパッケージ製品。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

20

本発明は、郵送対象物を開封可能に収容するパッケージに係り、特に、開封後に郵送対象物の付属品として利用可能なパッケージ及びこれを用いたパッケージ製品に関する。

【背景技術】

【0002】

従来この種のパッケージとしては、例えば特許文献1～3に記載のものが既に知られている。

特許文献1には、封筒の本体には、互いに交差する2側辺から所定間隔内側に複数の切り取りミシン目が設けられており、封筒の受取人は、その外形ミシン目に沿いつつ本体を切り取ることにより、本体の上側及び右側の端部を本体から容易に切り離すことができ、これにより、封筒は、互いに交差する2側辺が開口するフォルダ状に形成され、使用済みの封筒をフォルダとして再利用することが開示されている。

30

特許文献2には、紙製の底面ユニットの底面板長手方向前面縁部と後面縁部とに沿って、底面板に屈曲自在に接続する正面板に接続して鉤型に屈曲する上面蓋板及び両側面板とを有する正面ユニットと、底面板に屈曲自在に接続する背面板に接続して鉤型に屈曲する把手板及び両側面板とを有する背面ユニットとを、両ユニットの鉤型に屈曲する両側面板相互を当接する状態にて対向起立せしめ、上面蓋板と把手板の鉤型屈曲部相互を差込片を介して係合連結するとともに、両ユニットの両側面板の鉤型屈曲部下面に形成した切欠溝を底面板両側縁部より鉤型に屈曲起立する両側面板の上面中央部に挿入係合せしめて組立形成することが開示されている。

特許文献3には、折り畳んだ資料を厚紙製のカバー体の内部に収容し、要所を接着してカバー体を閉じることによって、封筒等に入れることなく、そのまま郵送可能なパッケージが完成し、使用時には、マチ面を切り取ることにより、厚紙でできた2枚の表紙面の間に大判の資料が展開自在に折り畳まれて挟まれた使い勝手のよい資料帖が形成されるパッケージ製品が開示されている。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2003-191962号公報（発明の実施の形態，図1）

【特許文献2】特開2002-347745号公報（発明の実施の形態，図1）

【特許文献3】特許第4096072号公報（実施例，図2，図6）

50

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明が解決しようとする技術的課題は、郵送対象物を容易に収容し、かつ、開封後に郵送対象物の付属品として利用可能なパッケージを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の第1の技術的特徴は、郵送対象物が収容されるパッケージであって、前記郵送対象物の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形状の表裏一對の被覆材と、前記一對の被覆材間に前記郵送対象物が収容可能な空間部を確保するように前記一對の被覆材の周辺全域を覆う周辺被覆帯と、を備え、前記一對の被覆材及び前記周辺被覆帯は一枚のパッケージシートを裁断して前記一對の被覆材と前記周辺被覆帯とが接続するように作製され、前記一對の被覆材間を前記周辺被覆帯にて被覆するように立体的に組立可能であり、前記周辺被覆帯は、前記一對の被覆材の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切取り可能に接続する切取り被覆帯部と、当該切取り被覆帯部以外の少なくとも一辺に沿う領域と切取り不能に接続する残存被覆帯部とを有し、前記一對の被覆材は、少なくとも一辺全域が前記残存被覆帯部を介して接続され、前記切取り被覆帯部で被覆される領域に沿う一辺の両隅又は片隅には前記切取り被覆帯部と接続しない曲面状の面取り部を有し、前記切取り被覆帯部を切り取ることで開封し、前記切取り被覆帯部を切り取った後のパッケージ残部が前記郵送対象物の一部を兼用することを特徴とするパッケージである。

本発明の第2の技術的特徴は、郵送対象物が収容されるパッケージであって、前記郵送対象物の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形状の表裏一對の被覆材と、前記一對の被覆材間に前記郵送対象物が収容可能な空間部を確保するように前記一對の被覆材の周辺全域を覆う周辺被覆帯と、を備え、前記一對の被覆材及び前記周辺被覆帯は一枚のパッケージシートを裁断して前記一對の被覆材と前記周辺被覆帯とが接続するように作製され、前記一對の被覆材間を前記周辺被覆帯にて被覆するように立体的に組立可能であり、前記周辺被覆帯は、前記一對の被覆材の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切取り可能に接続する切取り被覆帯部と、当該切取り被覆帯部以外の少なくとも一辺に沿う領域と切取り不能に接続する残存被覆帯部とを有し、前記一對の被覆材は、少なくとも一辺全域が前記残存被覆帯部を介して接続され、前記切取り被覆帯部で被覆される領域に沿う一辺の両隅又は片隅には前記切取り被覆帯部と接続しない曲面状の面取り部を有し、前記切取り被覆帯部を切り取ることで開封し、前記切取り被覆帯部を切り取った後のパッケージ残部のうち表裏一對の被覆材の全部若しくは一部は、前記パッケージ残部の内面側を外面側に露出させて前記郵送対象物の付属品として利用されることを特徴とするパッケージである。

【0007】

本発明の第3の技術的特徴は、第1又は第2の技術的特徴を備えたパッケージにおいて、前記周辺被覆帯は、前記一對の被覆材の周辺の一辺に共通の張り出し帯片を形成すると共に、他の辺の全部若しくは一部には個別の張り出し帯片を形成し、前記張り出し帯片と前記被覆材との接続部を折曲可能にすると共に、前記個別の張り出し帯片のうち相対向する部位に相互に存在するものについては相互に貼り合わせ、いずれか一方に存在するものについては対向する被覆材に貼り合わせて封止し、前記切取り被覆帯部については前記被覆材との境界部に沿って切取り可能なミシン目を形成することを特徴とするパッケージである。

本発明の第4の技術的特徴は、第3の技術的特徴を備えたパッケージにおいて、前記パッケージのうち少なくとも前記ミシン目を含む領域はポリプロピレン樹脂、ポリエチレン樹脂又はこれらを主成分として含む合成シートを基材とし、前記切取り被覆帯部のミシン目は0.3mm以下のカット長、0.2mm以下のノンカット長のマイクロミシン加工にて加工されていることを特徴とするパッケージである。

【0009】

本発明の第5の技術的特徴は、郵送対象物と、当該郵送対象物が収容されるパッケージ

とを備えたパッケージ製品であって、前記パッケージは、前記郵送対象物の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形状の表裏一對の被覆材と、前記一對の被覆材間に前記郵送対象物が収容可能な空間部を確保するように前記一對の被覆材の周辺全域を覆う周辺被覆帯と、を備え、前記一對の被覆材及び前記周辺被覆帯は一枚のパッケージシートを裁断して前記一對の被覆材と前記周辺被覆帯とが接続するように作製され、前記一對の被覆材間を前記周辺被覆帯にて被覆するように立体的に組立可能であり、前記周辺被覆帯は、前記一對の被覆材の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切取り可能に接続する切取り被覆帯部と、当該切取り被覆帯部以外の少なくとも一辺に沿う領域と切取り不能に接続する残存被覆帯部とを有し、前記一對の被覆材は、少なくとも一辺全域が前記残存被覆帯部を介して接続され、前記切取り被覆帯部で被覆される領域に沿う一辺の両隅又は片隅には前記切取り被覆帯部と接続しない曲面状の面取り部を有し、前記切取り被覆帯部を切り取ることで開封し、前記切取り被覆帯部を切り取った後のパッケージ残部が前記郵送対象物の一部を兼用することを特徴とするパッケージ製品である。

10

【0010】

本発明の第6の技術的特徴は、郵送対象物と、当該郵送対象物が収容されるパッケージとを備えたパッケージ製品であって、前記パッケージは、前記郵送対象物の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形状の表裏一對の被覆材と、前記一對の被覆材間に前記郵送対象物が収容可能な空間部を確保するように前記一對の被覆材の周辺全域を覆う周辺被覆帯と、を備え、前記一對の被覆材及び前記周辺被覆帯は一枚のパッケージシートを裁断して前記一對の被覆材と前記周辺被覆帯とが接続するように作製され、前記一對の被覆材間を前記周辺被覆帯にて被覆するように立体的に組立可能であり、前記周辺被覆帯は、前記一對の被覆材の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切取り可能に接続する切取り被覆帯部と、当該切取り被覆帯部以外の少なくとも一辺に沿う領域と切取り不能に接続する残存被覆帯部とを有し、前記一對の被覆材は、少なくとも一辺全域が前記残存被覆帯部を介して接続され、前記切取り被覆帯部で被覆される領域に沿う一辺の両隅又は片隅には前記切取り被覆帯部と接続しない曲面状の面取り部を有し、前記切取り被覆帯部を切り取ることで開封し、前記切取り被覆帯部を切り取った後のパッケージ残部のうち表裏一對の被覆材の全部若しくは一部は、前記パッケージ残部の内面側を外面側に露出させて前記郵送対象物の付属品として利用されることを特徴とするパッケージ製品である。

20

【発明の効果】

30

【0011】

本発明の第1の技術的特徴によれば、郵送対象物を容易に収容し、かつ、開封後に郵送対象物の付属品として郵送対象物を覆う機能部品として利用可能なエコ仕様のパッケージを提供することができるほか、一枚のパッケージシートから組立可能なパッケージを簡単に構築することができる。更に、パッケージ開封後には、パッケージ残部を郵送対象物の一部として利用することができる。

本発明の第2の技術的特徴によれば、郵送対象物を容易に収容し、かつ、開封後に郵送対象物の付属品として郵送対象物を覆う機能部品として利用可能なエコ仕様のパッケージを提供することができるほか、一枚のパッケージシートから組立可能なパッケージを簡単に構築することができる。更に、開封後のパッケージ残部を郵送対象物の付属品として利用するに当たり、郵送時の表裏一對の被覆材の外面をそのまま郵送対象物の付属品として利用する態様に比べて、郵送対象物の付属品としての装飾性を良好に保つことが容易である。

40

本発明の第3の技術的特徴によれば、一枚のパッケージシートから組立可能なパッケージを構築するに当たり、周辺被覆帯を簡単に形成することができる。

本発明の第4の技術的特徴によれば、郵送用パッケージとして十分な強度を保ち、郵送中のパッケージの破損を防止することができることに加えて、パッケージの開封操作を簡単に行うことができる。

本発明の第5の技術的特徴によれば、郵送対象物を容易に収容し、かつ、開封後に郵送対象物の付属品として郵送対象物を覆う機能部品として利用可能なエコ仕様のパッケージ

50

が含まれるパッケージ製品を提供することができるほか、一枚のパッケージシートから組立可能なパッケージを簡単に構築することが可能なパッケージ製品を提供することができる。更に、パッケージ開封後には、パッケージ残部を郵送対象物の一部として利用することができる。

本発明の第 6 の技術的特徴によれば、郵送対象物を容易に収容し、かつ、開封後に郵送対象物の付属品として郵送対象物を覆う機能部品として利用可能なエコ仕様のパッケージが含まれるパッケージ製品を提供することができるほか、一枚のパッケージシートから組立可能なパッケージを簡単に構築することが可能なパッケージ製品を提供することができる。更に、開封後のパッケージ残部を郵送対象物の付属品として利用するに当たり、郵送時の表裏一対の被覆材の外面をそのまま郵送対象物の付属品として利用する態様に比べて、郵送対象物の付属品としての装飾性を良好に保つことが容易である。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図 1】(a) は本発明が適用されたパッケージの実施の形態の概要の郵送前の状態を示す説明図、(b) は同パッケージの開封時の状態を示す説明図である。

【図 2】(a) は実施の形態 1 に係るパッケージの組立前の平面説明図、(b) は同パッケージの組立前の斜視説明図である。

【図 3】(a) は実施の形態 1 に係るパッケージに郵送対象物を収容する使用方法を示す説明図、(b) はパッケージに郵送対象物を収容したパッケージ製品を示す説明図である。

【図 4】(a) (b) はパッケージから郵送対象物を取り出す際の方法を示す説明図である。

【図 5】(a) は実施の形態 2 に係るパッケージの組立前の平面説明図、(b) は同パッケージの組立前の斜視説明図である。

【図 6】(a) はパッケージから郵送対象物を取り出す際の方法を示す説明図、(b) は開封後のパッケージを郵送対象物の付属品として利用する際の使用態様を示す説明図である。

【図 7】実施の形態 3 に係るパッケージ製品としての情報収集帳のパッケージ開封後の使用態様を示す説明図である。

【図 8】(a) は実施の形態 3 に係るパッケージ製品としての情報収集帳の折畳シートを展開した状態を示す説明図、(b) は同情報収集帳の折畳シートの折畳状態を示す説明図である。

【図 9】(a) は実施の形態 3 に係るパッケージ製品としての情報収集帳のうち第 1 のカバーの構成例を示す説明図、(b) は(a) 中 B - B 線断面説明図、(c) は同情報収集帳のうち第 2 のカバーの構成例を示す説明図である。

【図 10】(a) は実施の形態 3 に係るパッケージの組立前の平面説明図、(b) は同パッケージの組立前の斜視説明図、(c) は同パッケージの組立後の斜視説明図である。

【図 11】(a) は実施の形態 3 に係るパッケージ製品としての情報収集帳のうち折畳シートを折り畳んだ状態を示す説明図、(b) は(a) に示す情報収集帳において第 1 のカバーによる折畳シートの被覆状態を示す説明図である。

【図 12】(a) は実施の形態 3 に係るパッケージ製品としての情報収集帳の被収集物収集時における使用態様を示す説明図、(b) は(a) 中 B 部分の拡大説明図である。

【図 13】(a) は実施の形態 4 に係るパッケージの組立前の平面説明図、(b) は同パッケージの組立前の斜視説明図である。

【図 14】(a) は実施の形態 4 に係るパッケージから郵送対象物としての折畳シートを取り出す際の方法を示す説明図、(b) は開封後のパッケージ残部を折畳シートと一体化可能な付属品として利用したパッケージ製品としての情報収集帳の使用態様を示す説明図である。

【図 15】(a) は実施の形態 4 に係るパッケージ製品としての情報収集帳の折り畳み状態を示す説明図、(b) は同情報収集帳の展開状態を示す説明図である。

10

20

30

40

50

【図 1 6】実施の形態 5 に係るパッケージの組立前の展開状態を示す説明図である。

【図 1 7】(a) は実施例 1 に係るパッケージ製品としての情報収集帳 (本例では御朱印帳) の外観を示す説明図、(b) は実施例 2 に係るパッケージ製品としての情報収集帳 (本例では御朱印帳) の外観を示す説明図である。

【図 1 8】実施例 1 に係るパッケージ製品としての情報収集帳 (本例では御朱印帳) の使用例を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 3 】

実施の形態の概要

図 1 は本発明が適用されたパッケージ製品の実施の形態の概要を示す。

10

同図において、パッケージ製品は、郵送対象物 1 と、当該郵送対象物 1 を収容するパッケージ 2 とを備えている。

ここで、パッケージ 2 の代表的態様は、図 1 (a) (b) に示すように、郵送対象物 1 の平面形状の大きさと同程度の略矩形状の表裏一對の被覆材 3 , 4 と、一對の被覆材 3 , 4 間に郵送対象物 1 が収容可能な空間部を確保するように一對の被覆材 3 , 4 の周辺全域を覆う周辺被覆帯 5 と、を備え、周辺被覆帯 5 は、一對の被覆材 3 , 4 の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切取り可能に接続する切取り被覆帯部 5 a を有し、前記切取り被覆帯部 5 a を切り取ることで開封し、開封後のパッケージ残部を郵送対象物 1 とは別体又は開封後に一体化可能な付属品として利用するものである。

また、パッケージ 2 の別の代表的態様は、図 1 (a) (b) に示すように、郵送対象物 1 の平面形状の大きさと同程度以上の略矩形状の表裏一對の被覆材 3 , 4 と、一對の被覆材 3 , 4 間に郵送対象物 1 が収容可能な空間部を確保するように一對の被覆材 3 , 4 の周辺全域を覆う周辺被覆帯 5 と、を備え、周辺被覆帯 5 は、一對の被覆材 3 , 4 の周辺のうち少なくとも一辺に沿う領域と切取り可能に接続する切取り被覆帯部 5 a と、当該切取り被覆帯部 5 a 以外の領域と切取り不能に接続する残存被覆帯部 5 b とを有し、切取り被覆帯部 5 a を切り取ることで開封し、開封後のパッケージ残部を郵送対象物 1 とは別体又は一体化可能な付属品として利用するものである。

20

【 0 0 1 4 】

このような技術的手段において、郵送対象物 1 としては、冊子、文庫、折畳式資料、綴じ資料など厚さの薄い扁平状のものを主に想定しているが、これに限られず、非扁平状のものも含む。

30

また、前者及び後者のパッケージ 2 の基本的構成については、パッケージ 2 材料は通常パッケージ 2 全体で共通したものが使用されるが、パッケージ 2 の特定の部分に異なる材料を使用してもよいことは勿論である。

また、パッケージ 2 を郵送する際には、パッケージ 2 のいずれかの面に郵送先などをラベル表示、印刷を利用して表記するようにすればよい。

更に、一對の被覆材 3 , 4 は、郵送対象物 1 を収容するためには郵送対象物 1 の平面形状の大きさと同程度以上であることを要する。

更にまた、周辺被覆帯 5 は一對の被覆材 3 , 4 の周辺全域を覆うものであればよいが、その幅方向寸法としては郵送対象物 1 が収容可能な空間部を確保するように選定すればよい。

40

そして、周辺被覆帯 5 としては、切取り被覆帯部 5 a は一對の被覆材 3 , 4 の少なくとも一辺に沿う領域に設けるようにすればよい。これは、切取り被覆帯部 5 a を切り取ることでパッケージ 2 を開封したときに、郵送対象物 1 を使用可能にするには、少なくとも一對の被覆材 3 , 4 の一辺に面した開口を要することによる。

また、切取り被覆帯部 5 a を切取り可能とする構造としては、ミシン目が代表的であるが、これ以外 (例えばホチキス針等の止め具を外す手段) も含む趣旨である。

【 0 0 1 5 】

ここで、前者のパッケージ 2 では、周辺被覆帯 5 が一對の被覆材 3 , 4 の周辺全域に亘って切取り被覆帯部 5 a である態様も含む。従って、開封後のパッケージ残部としては、

50

周辺被覆帯 5 が全て切取り被覆帯部 5 a の場合には、一対の被覆材 3 , 4 が分離された状態で残存する。

但し、特許文献 3 のように、郵送対象物 1 が折り畳まれた資料である場合において、郵送時に一対の被覆材 3 , 4 が折り畳まれた資料の最上層、最下層に貼り付けられる態様は公知であるが、本願としては、「開封後のパッケージ残部を郵送対象物とは別体又は開封後に一体化可能な付属品として利用すること」を構成要件としていることから、特許文献 3 に示す態様とは異なる。本願では、例えばパッケージ残部である一対の被覆材 3 , 4 を郵送対象物 1 の表表紙、裏表紙として利用する場合には、開封された郵送対象物 1 に対して一対の被覆材 3 , 4 を貼り付けるようにすればよい。このとき、一対の被覆材 3 , 4 を表表紙、裏表紙とする場合、必要に応じてパッケージ 2 の内面を外面として配置し、表表紙、裏表紙の外観品質を維持することも可能である。

10

【 0 0 1 6 】

一方、後者のパッケージ 2 では、周辺被覆帯 5 は、切取り被覆帯部 5 a に加えて、当該切取り被覆帯部 5 a 以外の領域と切取り不能に接続する残存被覆帯部 5 b とを有する態様を前提とする。

本例は、パッケージ 2 の周辺被覆帯 5 の一部に残存被覆帯部 5 b を有するため、例えば一対の被覆材 3 , 4 の一辺に沿う切取り被覆帯部 5 a を切り取る場合には、一辺が開口したパッケージ 2 を郵送対象物 1 のケースとして利用することができ、また、一対の被覆材 3 , 4 の隣接する 3 辺に沿う切取り被覆帯部 5 a を切り取る場合には、一対の被覆材 3 , 4 を一辺に残った残存被覆帯部 5 b を背表紙とする外カバーとして利用することが可能である。尚、本例では、前者のパッケージ 2 と異なり、開封後のパッケージ残部を開封後に郵送対象物 1 と一体化可能な付属品として利用する態様に限られず、開封前から予め一体化される付属品として用いるようにしたものも含む。

20

【 0 0 1 7 】

次に、本実施の形態に係るパッケージ 2 又はパッケージ製品の代表的態様又は好ましい態様について説明する。

先ず、パッケージ 2 の代表的態様としては、一対の被覆材 3 , 4 及び周辺被覆帯 5 は一枚のパッケージシートを裁断して一対の被覆材 3 , 4 と周辺被覆帯 5 とが接続するように作製され、一対の被覆材 3 , 4 間を周辺被覆帯 5 にて被覆するように立体的に組立可能である態様が挙げられる。本例は、一枚のパッケージシートから一対の被覆材 3 , 4 を切り

30

【 0 0 1 8 】

更に、周辺被覆帯 5 の代表的態様としては、一対の被覆材 3 , 4 の周辺の一辺に共通の張り出し帯片 6 (本例では 6 c) を形成すると共に、他の辺の全部若しくは一部には個別の張り出し帯片 6 (本例では 6 a , 6 b , 6 d , 6 e , 6 f , 6 g) を形成し、張り出し帯片 6 と被覆材 3 , 4 との接続部を折曲可能にすると共に、個別の張り出し帯片 6 のうち相対向する部位に相互に存在するものについては相互に貼り合わせ、いずれか一方に存在するものについては対向する被覆材 3 又は 4 に貼り合わせて封止し、切取り被覆帯部 5 a については被覆材 3 , 4 との境界部 7 に沿って切取り可能なミシン目 8 を形成する態様が挙げられる。本例は、一枚のパッケージシートから一対の被覆材 3 , 4 を切り抜くに際し併せて周辺被覆帯 5 を確保する上で採用される代表的な態様である。

40

ここで、共通な張り出し帯片 6 (6 c) とは一対の被覆材 3 , 4 の対応する辺を繋ぐように張り出す帯片を指し、個別の張り出し帯片 6 (6 a , 6 b , 6 d , 6 e , 6 f , 6 g) とは一対の被覆材 3 , 4 の辺から個別に張り出す帯片を指す。個別の張り出し帯片 6 が相対向する部位に相互に存在する態様では相互に貼り合わせて封止することで周辺被覆帯 5 を構成することから、それぞれの幅寸法は周辺被覆帯 5 として必要な幅寸法よりも短くても差し支えない。また、個別の張り出し帯片 6 がいずれか一方に存在する態様では対向する被覆材 3 又は 4 に貼り合わせて封止することで周辺被覆帯 5 を構成することから、その幅寸法は周辺被覆帯 5 として必要な幅寸法よりも貼り合わせのための寸法分だけ長くすることが必要である。

50

【 0 0 1 9 】

更にまた、パッケージ材料及び切取り被覆部 5 a の好ましい態様としては、パッケージ 2 のうち少なくともミシン目 8 を含む領域はポリプロピレン樹脂、ポリエチレン樹脂又はこれらを主成分として含む合成シートを基材とし、切取り被覆部 5 a のミシン目 8 は 0 . 3 mm 以下のカット長、0 . 2 mm 以下のノンカット長のマイクロミシン加工にて加工されている態様が挙げられる。本例は、パッケージ 2 のうち少なくともミシン目 8 を含む領域に特定のパッケージ材料を選定し、マイクロミシン加工を施した切取り被覆部 5 a については、ミシン目 8 の方向には切り取り易く、ミシン目 8 に交差する方向の引張強度を高くすることができる。

【 0 0 2 0 】

また、パッケージ製品の代表的態様としては、郵送対象物 1 がパッケージ 2 のうち切取り被覆部 5 a を切り取ることで得られる開口から分離して取出し可能であり、切取り被覆部 5 a を切り取ることで得られる開口付きのパッケージ 2 を郵送対象物 1 の収容器として使用する態様が挙げられる。本例は、パッケージ 2 から分離可能な郵送対象物 1 を収容したパッケージ製品である。例えば郵送対象物 1 として本、冊子などを容器構造のパッケージ 2 に収容して郵送することが可能である。

更に、パッケージ製品の別の代表的態様としては、パッケージ 2 から切取り被覆部 5 a を切り取った後のパッケージ残部が郵送対象物 1 の一部を兼用する態様が挙げられる。本例は、開封後のパッケージ 2 を郵送対象物 1 の一部として兼用するパッケージ製品である。例えば郵送対象物 1 として本、冊子を郵送するに際し、夫々の表表紙、裏表紙、背表紙をパッケージと兼用するようにしておけばよい。この場合、表裏一対の被覆材 3 , 4 の周辺のうち隣接する 3 辺に沿って切取り被覆部 5 a を形成し、この切取り被覆部 5 a のいずれかの面を利用して郵送先を表示するようにしてもよいし、あるいは、表表紙、裏表紙等に剥がし可能なラベルを付し、当該ラベルに郵送先を表示するようにしてもよい。

【 0 0 2 1 】

更にまた、パッケージ製品の好ましい態様としては、パッケージ 2 から切取り被覆部 5 a を切り取った後のパッケージ残部のうち表裏一対の被覆材 3 , 4 の全部若しくは一部は、パッケージ 2 の内面側を外面側に露出させて郵送対象物 1 の付属品として利用される態様が挙げられる。本例は、開封後のパッケージ残部を郵送対象物 1 の付属品として利用するに当たって、一対の被覆材 3 , 4 の全部若しくは一部がパッケージ 2 の内面側を外面側に露出させて利用される態様である。本例では、仮に郵送時にパッケージ 2 の被覆材 3 , 4 の外面が損傷したり、当該外面に宛先ラベルを貼付したりしても、郵送後のパッケージ残部を郵送対象物 1 の付属品として使用するときには、被覆材 3 , 4 の外面の損傷などを隠すことができ、被覆材 3 , 4 の内面を外から視認可能な装飾面として機能させることが可能になる点で好ましい。

【 0 0 2 2 】

以下、添付図面に示す実施の形態に基づいて本発明をより詳細に説明する。

実施の形態 1

図 2 (a) は実施の形態 1 に係るパッケージの組立前の平面説明図、同図 (b) は同パッケージの組立前の斜視説明図である。尚、実施の形態 1 に係るパッケージは本発明に関連する参考の形態である。

本例において、郵送対象物 M としては、例えば矩形状の書籍、手帳、冊子や、折畳み可能な地図、情報収集帳など郵送可能なものであれば広く含まれる。

- パッケージの基本構成 -

また、本例におけるパッケージ 2 0 は、郵送対象物 M (図 3 (a) 参照) を収容するものであって、郵送対象物 M の平面形状に略対応した矩形状に形成された一方の被覆材としての第 1 のカバー 2 1 と、第 1 のカバー 2 1 に対向して配置され、第 1 のカバー 2 1 と同程度の大きさに形成された他方の被覆材としての第 2 のカバー 2 2 と、第 1 及び第 2 のカバー 2 1 , 2 2 間に郵送対象物 M が収容可能な空間部を確保するように両方のカバー 2 1 , 2 2 の周辺全域を覆うマチ面となる周辺被覆部 2 3 と、を備えている。

【 0 0 2 3 】

本例において、パッケージ 2 0 の素材としては適宜選定して差し支えないが、ポリプロピレン樹脂、ポリエチレン樹脂あるいは合成紙ユボ（登録商標）が使用されている。

そして、第 1 のカバー 2 1 は、その縦方向の一側辺に接続帯片 3 0 を介して第 2 のカバー 2 2 に接続されており、第 1 のカバー 2 1 と接続帯片 3 0 との境界部及び第 2 のカバー 2 2 と接続帯片 3 0 との境界部には折曲可能な折り目 3 7 が設けられている。更に、本例では、第 1 のカバー 2 1 の接続帯片 3 0 以外の 3 辺には接続帯片 3 0 の幅寸法と略同程度の幅寸法の細長い張り出し帯片 3 1 ~ 3 3 が形成され、また、第 2 のカバー 2 2 の接続帯片 3 0 以外の 3 辺にも接続帯片 3 0 の幅寸法と略同程度の幅寸法の細長い張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 が形成され、各張り出し帯片 3 1 ~ 3 6 の一部（本例では 3 1 , 3 3 , 3 4 , 3 6 ）と第 1 のカバー 2 1 又は第 2 のカバー 2 2 との境界部には折曲可能な折り目 3 7 が形成される一方、各張り出し帯片 3 1 ~ 3 6 の残部（本例では 3 2 , 3 5 ）と第 1 のカバー 2 1 又は第 2 のカバー 2 2 との境界部には折曲可能な折り目に沿って切取り可能なミシン目 3 8 が形成されている。

10

尚、第 1 のカバー 2 1 のうち各張り出し帯片 3 1 ~ 3 3 間に位置する各隅部及び第 2 のカバー 2 2 のうち各張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 間に位置する各隅部には曲面状の面取り部 2 5 が形成されている。

【 0 0 2 4 】

ここで、ミシン目 3 8 については各張り出し帯片 3 2 , 3 5 の切取り後の第 1 のカバー 2 1 や第 2 のカバー 2 2 の周縁の平滑性を良好に保つ上でマイクロミシン加工にて加工されることが好ましい。

20

特に、本例では、パッケージ 2 0 の素材として、例えばポリプロピレン樹脂、ポリエチレン樹脂あるいは合成紙ユボ（登録商標）を使用することにしたので、マイクロミシン加工により例えば 0 . 3 mm 以下のカット長、0 . 2 mm 以下のノンカット長のミシン目 3 8 を形成したとしても、各張り出し帯片 3 2 , 3 5 はミシン目 3 8 の方向に沿って容易に切り取ることは可能であるが、ミシン目 3 8 に沿って折り曲げたとしても、ミシン目 3 8 に沿う方向に対して交差する方向に作用する各張り出し帯片 3 2 , 3 5 の引っ張り荷重についてはある程度の強度が確保されることが確認されている。このため、第 1 のカバー 2 1 、第 2 のカバー 2 2 に張り出し帯片 3 2 , 3 5 を形成し、ミシン目 3 8 に沿って折り曲げたとしても、これらをミシン目 3 8 に沿って切り取る前であれば張り出し帯片 3 2 , 3 5 と第 1 のカバー 2 1 又は第 2 のカバー 2 2 との間の接続強度はある程度確保することは可能である。

30

【 0 0 2 5 】

更に、本例では、第 2 のカバー 2 2 側に形成された張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 は第 1 のカバー 2 1 側に形成された張り出し帯片 3 1 ~ 3 3 よりも各辺に沿う長さ寸法が長く形成されており、また、第 2 のカバー 2 2 の横方向の両側辺に沿って形成された張り出し帯片 3 4 , 3 6 の張り出し帯片 3 5 側には三角形状の接合片 3 4 a , 3 6 a がミシン目 3 8 を介して形成されている。

【 0 0 2 6 】

- パッケージの組立方法 -

40

次に、図 2 (a) に示す平面状に展開されたパッケージ 2 0 を郵送用の扁平な箱状容器に組み立てる場合について説明する。

今、図 2 (b) 及び図 3 (a) に示すように、第 1 のカバー 2 1 の各張り出し帯片 3 1 ~ 3 3 を折り目 3 7 又はミシン目 3 8 に沿って略直角に折り曲げ、しかる後に、第 2 のカバー 2 2 を接続帯片 3 0 の一方の折り目 3 7 に沿って略直角に折り曲げ、更に、第 2 のカバー 2 2 の各張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 を折り目 3 7 又はミシン目 3 8 に沿って略直角に折り曲げると共に、第 2 のカバー 2 2 の張り出し帯片 3 4 , 3 6 の接合片 3 4 a , 3 6 a に図示外の接着剤を塗布して張り出し帯片 3 5 の両端部に固着し、これにより、第 2 のカバー 2 2 の周辺に接続帯片 3 0 及び長手方向端部が相互に固着されて 3 辺に沿って連なる張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 からなる周辺囲い 2 3 c を形成するようにすればよい。

50

この状態において、パッケージ 20 は、図 3 (a) に示すように、第 2 のカバー 22 及び周辺囲い 23 c (張り出し帯片 34 ~ 36) からなる上方が開口した扁平な箱本体 20 a と、周辺囲い 23 c の一部を構成する接続帯片 30 に接続する第 1 のカバー 21 からなる蓋体 20 b とを有し、蓋体 20 b が箱本体 20 a に対して開放された状態に保たれている。

【 0027 】

- パッケージへの梱包方法 -

このため、本実施の形態では、パッケージ 20 に郵送対象物 M を梱包する場合には、図 3 (a) に示す状態の開放されたパッケージ 20 の箱本体 20 a に郵送対象物 M を収納した後、図 3 (b) に示すように、蓋体 20 b (第 1 のカバー 21 に相当) の各張り出し帯片 31 ~ 33 を折り目 37 又はミシン目 38 に沿って略直角に折り曲げると共に、箱本体 20 a の周辺囲い 23 c のうち張り出し帯片 34 ~ 36 に対して各張り出し帯片 31 ~ 33 を図示外の接着手段 (例えば両面テープ等) を介して固着し、第 1 のカバー 21 と第 2 のカバー 22 との間にマチ面となる周辺被覆帯 23 としてのマチ面被覆帯部 40 ~ 43 を形成し、これにより、扁平な箱状容器からなる閉じたパッケージ 20 を構築するようにすればよい。

ここで、マチ面被覆帯部 40 は接続帯片 30 からなり、マチ面被覆帯部 41 は張り出し帯片 31 , 34 を接着したものからなり、マチ面被覆帯部 42 は張り出し帯片 32 , 35 を接着したものからなり、マチ面被覆帯部 43 は張り出し帯片 33 , 36 を接着したものからなる。

この状態において、郵送対象物 M はパッケージ 20 内に梱包され、パッケージ 20 の外表面、例えば第 1 のカバー 21 又は第 2 のカバー 22 の外表面に郵送先が記載された宛名ラベル (図示外) を貼付することで、郵送可能なパッケージ製品 P が構築される。

尚、宛名ラベルはパッケージ 20 の外表面に貼付されたままでも差し支えないが、パッケージ 20 の後利用を考慮すれば、剥離可能な宛名ラベルを使用することが好ましい。

【 0028 】

- パッケージの開封方法 -

郵送されたパッケージ製品 P を開封する場合には、図 4 (a) に示すように、第 1 のカバー 21 及び第 2 のカバー 22 に対してミシン目 38 を介して接続されているマチ面被覆帯部 42 (張り出し帯片 32 , 35) をミシン目 38 に沿って切り取ることで、パッケージ 20 のうち当該マチ面被覆帯部 42 に対応した部位に開口部 45 を形成するようにすればよい。

この状態において、図 4 (b) に示すように、パッケージ 20 の開口部 45 から郵送対象物 M を取り出すようにすればよい。

ここで、パッケージ製品 P としては郵送対象物 M を郵送する機能が既に消耗されることになるが、郵送対象物 M が取り出された後のパッケージ 20 は、例えば郵送対象物 M が書籍や冊子などである場合には、郵送対象物 M を保管する付属品として利用することが可能である。このとき、パッケージ 20 に剥離可能な宛名ラベル (図示せず) を使用していれば、宛名ラベルを剥離することでパッケージ 20 の外観品質を整備するようにしてもよいし、あるいは、パッケージ 20 内に付属品として利用する際に使用可能な表示ラベル (図示せず) を同封し、宛名ラベルを剥離した後、あるいは、宛名ラベルの上に貼付するようにしてもよい。

【 0029 】

実施の形態 2

図 5 (a) は実施の形態 2 に係るパッケージの組立前の平面説明図、同図 (b) は同パッケージの組立前の斜視説明図である。

- パッケージの基本構成 -

同図において、パッケージ 20 の基本的構成は、実施の形態 1 と略同様に、第 1 のカバー 21、第 2 のカバー 22 及び周辺被覆帯 23 を備えているが、周辺被覆帯 23 の構成が実施の形態 1 と異なっている。尚、実施の形態 1 と同様な構成要素については実施の形態

1と同様な符号を付してここではその詳細な説明を省略する。

本例において、第1のカバー21は、実施の形態1と同様に、その縦方向の一側辺に接続帯片30を介して第2のカバー22に折り目37を介して接続されており、第1のカバー21の接続帯片30以外の3辺には張り出し帯片31～33が、また、第2のカバー22の接続帯片30以外の3辺には張り出し帯片34～36が夫々形成されている。

ここで、周辺被覆帯23は、実施の形態1と同様に、接続帯片30、第1のカバー21側に形成された張り出し帯片31～33と第2のカバー22側に形成された張り出し帯片34～36とを図示外の接着手段を介して固着することで、図6(a)に示すマチ面被覆帯部40～43として形成したものであるが、実施の形態1と異なり、第1のカバー21、第2のカバー22と接続帯片30との境界部にのみ折り目37が形成され、第1のカバー21、第2のカバー22と各張り出し帯片31～36との境界部にはいずれもミシン目38が形成されている。

10

【0030】

- パッケージの組立方法及びパッケージへの梱包方法 -

本例において、パッケージ20の組立方法及び梱包方法については、基本的に実施の形態1と略同様に行い、図6(a)に示す郵送可能なパッケージ製品Pを構築するようにすればよい。

- パッケージの開封方法 -

郵送されたパッケージ製品Pを開封する場合には、図6(a)に示すように、第1のカバー21及び第2のカバー22に対してミシン目38を介して接続されている周辺被覆帯23の3辺に沿うマチ面であるマチ面被覆帯部41～43(張り出し帯片31～36)をミシン目38に沿って切り取ることで、図6(b)に示すように、パッケージ20のうちマチ面被覆帯部40(接続帯片30に相当)以外の3辺に沿うマチ面被覆帯部41～43に対応した部位に略C字状の開口部45を形成するようにすればよい。

20

この状態において、図6(b)に示すように、パッケージ20の第1のカバー21を接続帯片30を介して第2のカバー22から開放することで、パッケージ20から郵送対象物Mを取り出すようにすればよい。

【0031】

ここで、郵送対象物Mが取り出された後のパッケージ20は、例えば郵送対象物Mが書籍や冊子などである場合には、郵送対象物Mの外表面を覆う書籍カバー(又は冊子カバー)等の付属品として利用することが可能である。このとき、パッケージ20に剥離可能な宛名ラベル(図示せず)を使用していれば、宛名ラベルを剥離することでパッケージ20の外観品質を整備するようにしてもよいし、あるいは、パッケージ20の内表面に予め装飾を施すようにしておけば、パッケージ20を付属品として利用する場合に開封されたパッケージ20を裏返して使用し、宛名ラベル等が残ったままでも、パッケージ20の内表面の装飾を外側に露出させるようにしてもよく、この使用態様では、パッケージ20の宛名ラベルが残ったままでも、郵送対象物Mの付属品として利用するときには外観品質を損なう懸念もない。

30

【0032】

尚、本例では、周辺被覆帯23はパッケージ20のマチ面のうち3辺に沿うマチ面被覆帯部41～43をミシン目38を介して切り取り可能に構成しているが、マチ面被覆帯部41～43の全てを切り取らなくてはならないということではなく、これらの一部を切り取って開口部45を確保し、パッケージ20の開口部45から郵送対象物Mを取り出し、かつ、開封済みのパッケージ20を郵送対象物Mを保管する付属品として利用するようにしてもよい。また、本例では、マチ面被覆帯部40は折り目37を介して第1のカバー21、第2のカバー22に接続した態様になっているが、折り目37に代えてミシン目38を付すようにしても差し支えない。

40

【0033】

実施の形態3

図7は実施の形態3に係るパッケージ製品の郵送後の使用態様を示す説明図である。

50

本例におけるパッケージ製品 P は郵送後の使用態様が情報収集帳 50 であるものを示す。

- 情報収集帳の全体構成 -

本例でいう情報収集帳 50 は各種情報としての被収集物を複数収集する道具として広く用いられる。

ここで、被収集物としては、神社・仏閣の御朱印を始め、シール、カード、スタンプ、寄せ書き、サイン、色紙、絵手紙、スケッチ、七福神めぐり等が挙げられる。

本例において、情報収集帳 50 は、縦横複数の折り目 62, 63 (図 8 (a) 参照) を介して接続し、略矩形状の単位シート部 61 に折り畳まれる展開可能な折畳シート 60 と、折り畳まれた折畳シート 60 の最下層に位置する単位シート部 61 に図示外の接着手段 (例えば両面テープや接着剤) を介して固着される第 1 の外装カバー 70 と、折り畳まれた折畳シート 60 の最上層に位置する単位シート部 61 に図示外の接着手段 (例えば両面テープや接着剤) を介して固着される第 2 の外装カバー 90 と、を備えている。

【0034】

< 折畳シート >

本例において、折畳シート 60 は、図 7 及び図 8 (a) に示すように、例えば 3 行 × 6 列の略矩形状の単位シート部 61 を有しており、単位シート部 61 の大きさは対象となる被収集物に合わせて適宜選定して差し支えない。例えば被収集物が神社・仏閣の御朱印であれば御朱印の大きさを考慮して選定するようにすればよい。尚、単位シート部 61 の大きさについては必ずしも夫々の被収集物が収まる大きさに選定する必要はなく、複数の単位シート部 61 に跨がって夫々の被収集物を収集するようにしてもよいことは勿論である。

また、本例では、折畳シート 60 は、墨汁、朱印又はインクによる表示が滲み・裏移りし難い和紙にて構成されている。この種の和紙としては例えばスターバック B - S 120 g / m² などの特殊開発の高級和紙が最適であり、これにより、墨汁や朱印の速やかな吸収性に優れた、滲みや写り込みがないきれいな紙面を保つことが可能である。

【0035】

更に、折畳シート 60 の各単位シート部 61 は縦方向の折り目 62 及び横方向の折り目 63 を少なくとも 2 以上含んでいる。特に、本例では、折畳シート 60 の各折り目 62, 63 はミウラ折り (登録商標) に則ったものになっており、展開された折畳シート 60 の縦方向の折り目 62 については、図 8 (a) の左側から奇数番目の折り目 62 が所謂谷折り (図中一点鎖線で示す)、偶数番目の折り目 62 が所謂山折り (図中太点線で示す) になっており、また、横方向の折り目 63 については、図 8 (a) の上側に位置する折り目 63 は左側から奇数番目の単位シート部 61 が所謂谷折り、偶数番目の単位シート部 61 が所謂山折りになっており、更に、図 8 (a) の下側に位置する折り目 63 は左側から奇数番目の単位シート部 61 が所謂山折り、偶数番目の単位シート部 61 が所謂谷折りになっている。

このため、本例では、折畳シート 60 は、図 8 (a) に示す展開状態 (3 行 × 6 列の単位シート部 61 が展開した状態) から図 8 (b) に示す折畳状態に折り畳むことが可能になっている。

【0036】

< 第 1 の外装カバー >

本例において、第 1 の外装カバー 70 は、図 7 及び図 9 (a) に示すように、折畳シート 60 の最下層に位置する単位シート部 61 (図 7 中左上隅部に位置する単位シート部 61 に相当) の裏側に固着されている。

ここで、第 1 の外装カバー 70 としては、図 9 (a) (b) に示すように、折畳シート 60 よりも曲げ剛性の高い素材からなるカバー基材 (例えばポリプロピレン樹脂、ポリエチレン樹脂あるいは合成紙ユボ (登録商標) など) 81 が用いられており、本例ではカバー基材 81 の少なくとも外側面の全部若しくは一部には高級和紙などの装飾材 82 が貼付されている。尚、カバー基材 81 の内側面に外側面と同じあるいは異なる装飾材 82 を貼

付するようにしてもよいことは勿論である。また、カバー基材 8 1 の表面に装飾材 8 2 に代えて装飾画像を印刷するようにしてもよいことは勿論である。

【 0 0 3 7 】

そして、第 1 の外装カバー 7 0 は、略矩形状のカバー本体 7 1 を有し、このカバー本体 7 1 の縦方向の一側辺には折曲部 7 3 を介して横方向に接続する略矩形状の延長部 7 2 を有している。尚、本例では、装飾材 8 2 等による装飾部は少なくとも延長部 7 2 のうち表面に露呈する部位に設けられていることが好ましい。

本例において、カバー本体 7 1 は、折畳シート 6 0 の単位シート部 6 1 の縦横の外径寸法よりも大きい外形寸法 (x_1 , y_1) を有している。更に、延長部 7 2 もカバー本体 7 1 と略同様な外形寸法 (x_1 , y_1) を有している。そして、折曲部 7 3 は、カバー本体 7 1 及び延長部 7 2 との隣接部位に形成された折曲線 7 4 を介して折曲可能になっており、折曲部 7 3 の幅寸法 z_1 は折り畳まれた折畳シート 6 0 の厚さ及び第 2 の外装カバー 9 0 の厚さの合算値以上に選定されている。尚、カバー本体 7 1 及び延長部 7 2 のうち折曲部 7 3 から離れた側の各隅部には曲面状の面取り部 7 5 が形成されている。

【 0 0 3 8 】

< 第 2 の外装カバー >

第 2 の外装カバー 9 0 は、図 7 及び図 9 (c) に示すように、折畳シート 6 0 の最上層に位置する単位シート部 6 1 (図 7 中右下隅部に位置する単位シート部 6 1 に相当) の裏側に固着されている。

ここで、第 2 の外装カバー 9 0 としては第 1 の外装カバー 7 0 と同様な素材で構成されており、略矩形状のカバー本体 9 1 を有している。このカバー本体 9 1 は、折畳シート 6 0 の単位シート部 6 1 の縦横の外径寸法よりも大きい外形寸法 (x_2 , y_2) (本例では $x_2 = x_1$, $y_2 = y_1$) を有している。尚、カバー本体 9 1 の各隅部には曲面状の面取り部 9 5 が形成されている。

【 0 0 3 9 】

- パッケージ構成例 -

本実施の形態において、第 1 の外装カバー 7 0 は、情報収集帳 5 0 として使用する前、それ自体で扁平な箱状容器構造のパッケージ 2 0 の構成要素として用いられ、パッケージ 2 0 を開封した後は情報収集帳 5 0 の一要素として使用される。

本例において、パッケージ 2 0 の基本的構成は、図 1 0 (a) ~ (c) に示すように、実施の形態 2 のパッケージ 2 0 と略同様な構成要素 (第 1 のカバー 2 1、第 2 のカバー 2 2 及び周辺被覆帯 2 3) を備えており、本例では、第 1 のカバー 2 1 が第 1 の外装カバー 7 0 のカバー本体 7 1 に相当し、第 2 のカバー 2 2 が第 1 の外装カバー 7 0 の延長部 7 2 に相当し、周辺被覆帯 2 3 の接続帯片 3 0 が第 1 の外装カバー 7 0 の折曲部 7 3 に相当する。そして、パッケージ 2 0 の組立前の展開状態では、第 1 のカバー 2 1 の接続帯片 3 0 以外の 3 辺には張り出し帯片 3 1 ~ 3 3 が形成され、第 2 のカバー 2 2 の接続帯片 3 0 以外の 3 辺には張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 が形成され、更に、各張り出し帯片 3 1 ~ 3 6 と第 1 のカバー 2 1、第 2 のカバー 2 2 との境界部には折り曲げ可能で且つ境界線に沿って切り取り可能なマイクロミシン加工のミシン目 3 8 が形成されている。

尚、第 1 の外装カバー 7 0 をパッケージ 2 0 として使用する際には、第 1 の外装カバー 7 0 と折畳シート 6 0 とは非接着な状態に保たれる。

【 0 0 4 0 】

- パッケージの組立方法 -

本例において、パッケージ 2 0 の組立方法については、図 1 0 (b) に示すように、基本的に実施の形態 2 と略同様に行い、パッケージ 2 0 の蓋体 2 0 b が箱本体 2 0 a に対して開放された状態に保たれるようにすればよい。

- パッケージへの梱包方法 -

そして、本例では、パッケージ 2 0 に郵送対象物 M としての折畳シート 6 0 及び第 2 の外装カバー 9 0 を梱包する場合には、図 1 0 (b) に示す状態の開放されたパッケージ 2 0 の箱本体 2 0 a に郵送対象物 M を収納した後、蓋体 2 0 b (第 1 のカバー 2 1 に相当)

の各張り出し帯片 3 1 ~ 3 3 をミシン目 3 8 に沿って略直角に折り曲げると共に、箱本体 2 0 a の周辺囲い 2 3 c のうち張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 に対して各張り出し帯片 3 1 ~ 3 3 を図示外の接着手段（例えば両面テープ等）を介して固着し、第 1 のカバー 2 1 と第 2 のカバー 2 2 との間にマチ面となる周辺被覆帯 2 3 としてのマチ面被覆帯部 4 0 ~ 4 3 を形成し、これにより、扁平な箱状容器からなる閉じたパッケージ 2 0 を構築するようにすればよい。

尚、パッケージ 2 0 に梱包される折畳シート 6 0 及び第 2 の外装カバー 9 0 については予め接着固定されていてもよいし、あるいは、パッケージ 2 0 から取り出した後に両者を接着するようにしてもよい。

ここで、第 1 の外装カバー 7 0 はカバー基材 8 1 の外表面に装飾材 8 2 あるいは装飾画像を施した態様であるが、パッケージ 2 0 として使用する場合に装飾面が汚れないように、装飾面が内面になるように裏返して使用することが好ましい。また、第 1 の外装カバー 7 0 をパッケージ 2 0 として使用する場合にはカバー基材 8 1 のみの構成とし、情報収集帳 5 0 の第 1 の外装カバー 7 0 として使用する場合にはカバー基材 8 1 に装飾材 8 2 等の装飾を後付けするようにしてもよい。

【 0 0 4 1 】

- パッケージの開封方法 -

郵送されたパッケージ製品 P を開封する場合には、実施の形態 2 と略同様に、第 1 のカバー 2 1 及び第 2 のカバー 2 2 に対してミシン目 3 8 を介して接続されている周辺被覆帯 2 3 の 3 辺に沿うマチ面であるマチ面被覆帯部 4 1 ~ 4 3 （張り出し帯片 3 1 ~ 3 6 ）をミシン目 3 8 に沿って切り取ることで、パッケージ 2 0 のうちマチ面被覆帯部 4 0 （接続帯片 3 0 に相当）以外の 3 辺に沿うマチ面被覆帯部 4 1 ~ 4 3 に対応した部位に略 C 字状の開口部 4 5 を形成し、パッケージ 2 0 の第 1 のカバー 2 1 を接続帯片 3 0 を介して第 2 のカバー 2 2 から開放することで、パッケージ 2 0 から郵送対象物 M としての折畳シート 6 0 及び第 2 の外装カバー 9 0 を取り出すようにすればよい。

【 0 0 4 2 】

- 情報収集帳の使用法 -

< 情報収集帳の使用準備 >

本実施の形態では、パッケージ 2 0 開封後、郵送対象物 M としての折畳シート 6 0 及び第 2 の外装カバー 9 0 を取り出した後、開封されたパッケージ 2 0 を第 1 の外装カバー 7 0 として使用し、折畳シート 6 0 の最下層に位置する単位シート部 6 1 に接着固定し、もし、第 2 の外装カバー 9 0 が折畳シート 6 0 と非接着であれば接着することで、情報収集帳 5 0 を使用可能な状態に準備するようにすればよい。

【 0 0 4 3 】

< 情報収集帳携帯時 >

情報収集帳 5 0 を携帯する際には、図 1 1 (a) (b) に示すように、第 1 の外装カバー 7 0 及び第 2 の外装カバー 9 0 を把持して折畳シート 6 0 を折り畳み、しかる後、第 1 の外装カバー 7 0 の延長部 7 2 を折曲部 7 3 を介して第 2 の外装カバー 9 0 を覆う位置に折り曲げるようにすればよい。このとき、情報収集帳 5 0 では、折畳シート 6 0 が折畳状態で第 1 の外装カバー 7 0 、第 2 の外装カバー 9 0 に挟まれた状態で収容され、更に、第 1 の外装カバー 7 0 の延長部 7 2 が第 2 の外装カバー 9 0 を覆う位置に配置されている。本例では、第 1 の外装カバー 7 0 の延長部 7 2 のうち表面に露呈する部分は装飾材 8 2 等で覆われていることから、情報収集帳 5 0 の携帯時における外観品質は良好に保たれている。

【 0 0 4 4 】

< 情報収集帳使用時 >

情報収集帳 5 0 を使用する際には、例えば図 1 1 (a) に示すように、第 1 の外装カバー 7 0 の延長部 7 2 を折曲部 7 3 を介して開放した後、図 1 2 (a) に示すように、第 1 の外装カバー 7 0 及び第 2 の外装カバー 9 0 を把持して折畳シート 6 0 を全部展開し、展開された折畳シート 6 0 の該当箇所（図 1 2 (a) 中の C 1 ~ C 1 8 のいずれか）に被収

10

20

30

40

50

集物（例えば神社・仏閣の御朱印）を収集するようにすればよい。

このとき、折畳シート 60 を全部展開してもよいが、被収集物の収集作業スペースとして折畳シート 60 の全部を展開する必要がない場合には、折畳シート 60 の一部（例えば折畳シート 60 の C1 ～ C12 までの一部の領域）を展開した後、該当箇所である例えば C5 の単位シート部 61 に被収集物を収集するようにしてもよい。

【0045】

< 情報収集帳展示時 >

情報収集帳 50 に複数の被収集物を収集し終わった場合、収集した被収集物を壁面に飾ったり、額に入れてインテリアとして利用することで展示することが可能である。

このとき、図 12 (a) に示すように、折畳シート 60 を全部展開し、かつ、第 1 の外装カバー 70 の延長部 72 を折曲部 73 を介して折畳シート 60 の図中左上隅部に位置する単位シート部 61 (C16 の領域) 上に折り返し、当該折畳シート 60 全体を展開状態で保持することにより収集された被収集物を展示するようにすればよい。

このような使用態様においては、図 12 (a) に示すように、展開された情報収集帳 50 を略矩形状に収めることで展開状態の情報収集帳 50 を容易に保持することが可能であり、しかも、図 12 (a) (b) に示すように、第 1 の外装カバー 70 のうち折り返された延長部 72 の表面を露呈させることで、情報収集帳 50 の装飾材 82 のデザイン 82a, 82b や情報収集帳 50 の品名表示 82c にて情報収集帳 50 の種別も合わせて表示することが可能である。

【0046】

本実施の形態では、情報収集帳 50 は折畳シート 60 を使用した態様が示されているが、これに限られるものではなく、枚葉状のシートを束ねた冊子を第 1 の外装カバー 70 及び第 2 の外装カバー 90 で覆うようにしてもよいことは勿論である。

【0047】

実施の形態 4

図 13 (a) は実施の形態 4 に係るパッケージの組立前の平面説明図、同図 (b) は同パッケージの組立前の斜視説明図である。尚、実施の形態 4 に係るパッケージは周辺被覆帯全体を切り取り被覆帯部とした参考の形態である。

同図において、パッケージ 20 の基本的構成は、実施の形態 2 と略同様に、第 1 のカバー 21、第 2 のカバー 22 及び周辺被覆帯 23 (マチ面被覆帯部 40 ～ 43) を備えているが、実施の形態 2 と異なり、マチ面被覆帯部 40 ～ 43 と第 1 のカバー 21、第 2 のカバー 22 との境界部にはいずれもミシン目 38 を形成し、第 1 のカバー 21、第 2 のカバー 22 に対してマチ面被覆帯部 40 ～ 43 をミシン目 38 を介して切り取り可能に接続した態様になっている。尚、実施の形態 2 と同様な構成要素については実施の形態 2 と同様な符号を付してここではその詳細な説明を省略する。

【0048】

本実施の形態において、パッケージ製品 P は郵送後の使用態様が折畳情報帳であるものを示す。

ここでいう折畳情報帳 100 は、図 15 (a) (b) に示すように、縦横複数の折り目 112, 113 を介して接続し、略矩形状の単位シート部 111 に折り畳まれる展開可能な折畳シート 110 と、折り畳まれた折畳シート 110 の最下層に位置する単位シート部 111 に図示外の接着手段 (例えば両面テープや接着剤) を介して固着される裏カバー 120 (本例では第 1 のカバー 21 を使用) と、折り畳まれた折畳シート 110 の最上層に位置する単位シート部 111 に図示外の接着手段 (例えば両面テープや接着剤) を介して固着される表カバー 130 (本例では第 2 のカバー 22 を使用) と、を備えている。

本例では、折畳シート 110 には各種目的の下で必要な情報が予め印刷等で記載されており、例えばミウラ折り (登録商標) にて展開可能に折り畳まれており、裏カバー 120 及び表カバー 130 は折畳シート 110 よりも曲げ剛性の高い素材からなるカバー基材 (例えば厚紙やポリプロピレン樹脂、ポリエチレン樹脂、合成紙ユボ (登録商標)) にて構成されている。

【 0 0 4 9 】

- パッケージの組立方法 -

本例において、パッケージ 2 0 の組立方法については、図 1 3 (a) (b) に示すように、基本的に実施の形態 2 と略同様に行い、パッケージ 2 0 の蓋体 2 0 b が箱本体 2 0 a に対して開放された状態に保たれるようにすればよい。

- パッケージへの梱包方法 -

本例では、パッケージ 2 0 に郵送対象物 M としての折畳シート 1 1 0 を梱包する場合には、図 1 3 (b) に示す状態の開放されたパッケージ 2 0 の箱本体 2 0 a に郵送対象物 M を収納した後、箱本体 2 0 a を蓋体 2 0 b (第 1 のカバー 2 1 に相当) で閉じると共に第 1 のカバー 2 1 と第 2 のカバー 2 2 との間にマチ面となる周辺被覆帯 2 3 としてのマチ面被覆帯部 4 0 ~ 4 3 を形成し、これにより、扁平な箱状容器からなる閉じたパッケージ 2 0 を構築するようにすればよい。

10

【 0 0 5 0 】

- パッケージの開封方法 -

郵送されたパッケージ製品 P を開封する場合には、図 1 4 (a) に示すように、第 1 のカバー 2 1 及び第 2 のカバー 2 2 に対してミシン目 3 8 を介して接続されている周辺被覆帯 2 3 の 4 辺に沿うマチ面であるマチ面被覆帯部 4 0 ~ 4 3 をミシン目 3 8 に沿って切り取ることで、第 1 のカバー 2 1 及び第 2 のカバー 2 2 を分離すると共に、パッケージ 2 0 から郵送対象物 M としての折畳シート 1 1 0 を取り出すようにすればよい。

20

【 0 0 5 1 】

- 折畳情報帳の使用方法 -

本実施の形態では、パッケージ 2 0 開封後、郵送対象物 M としての折畳シート 1 1 0 を取り出した後、図 1 4 (b) に示すように、折畳シート 1 1 0 の最下層及び最上層に位置する単位シート部 1 1 1 に、開封されたパッケージ 2 0 の第 1 のカバー 2 1 を裏カバー 1 2 0 として、また、第 2 のカバー 2 2 を表カバー 1 3 0 として接着剤 1 4 0 で接着固定し、折畳情報帳 1 0 0 を使用可能な状態に準備するようにすればよい。

尚、裏カバー 1 2 0 及び表カバー 1 3 0 の外側面については、パッケージ 2 0 として使用したときの第 1 のカバー 2 1、第 2 のカバー 2 2 の内面を使用するようにすれば外観品質を良好に保つ上で好ましい。

ここで、折畳情報帳 1 0 0 を携帯する際には、図 1 5 (a) に示すように、裏カバー 1 2 0 及び表カバー 1 3 0 を把持して折畳シート 1 1 0 を折り畳み、コンパクトな状態に保持して携帯するようにすればよい。

30

一方、折畳情報帳 1 0 0 を使用する際には、例えば図 1 5 (b) に示すように、裏カバー 1 2 0 及び表カバー 1 3 0 を把持して折畳シート 1 1 0 を全部展開し、折畳シート 1 1 0 上の情報を読み取るようにすればよい。

【 0 0 5 2 】

実施の形態 5

図 1 6 は実施の形態 5 に係るパッケージの組立前の平面説明図である。尚、実施の形態 5 に係るパッケージは周辺被覆帯全体を切取り被覆帯部とした参考の形態である。

同図において、パッケージ 2 0 の基本的構成は、実施の形態 4 と略同様に、第 1 のカバー 2 1、第 2 のカバー 2 2 及び周辺被覆帯 2 3 (マチ面被覆帯部 4 0 ~ 4 3) を備えているが、周辺被覆帯 2 3 が実施の形態 4 と異なる構成になっている。尚、実施の形態 4 と同様な構成要素については実施の形態 4 と同様な符号を付してここではその詳細な説明を省略する。

40

本例において、周辺被覆帯 2 3 は、第 1 のカバー 2 1 と第 2 のカバー 2 2 とを接続する接続帯片 3 0 をミシン目 3 8 を介して設け、第 1 のカバー 2 1 の周辺のうち接続帯片 3 0 に対向した箇所に張り出し帯片 3 2 をミシン目 3 8 を介して設ける一方、第 2 のカバー 2 2 の接続帯片 3 0 以外の 3 辺には張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 をミシン目 3 8 を介して設けると共に、張り出し帯片 3 4、3 6 の外周縁にはミシン目 3 8 を介して固定用帯片 1 3 4、1 3 6 を設けたものである。

50

尚、接続帯片 3 0 の長手方向両側及び張り出し帯片 3 5 の長手方向両側には接合片 3 0 a , 3 4 a が折り目 3 7 を介して設けられている。

【 0 0 5 3 】

本実施の形態では、パッケージ 2 0 を組み立てる場合には、第 1 のカバー 2 1 の張り出し帯片 3 2 をミシン目 3 8 に沿って略直角に折り曲げ、しかる後に、第 2 のカバー 2 2 を接続帯片 3 0 の一方のミシン目 3 8 に沿って略直角に折り曲げ、更に、第 2 のカバー 2 2 の各張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 をミシン目 3 8 に沿って略直角に折り曲げると共に、第 2 のカバー 2 2 の張り出し帯片 3 5 の接合片 3 4 a 及び接続帯片 3 0 の接合片 3 0 a をミシン目 3 8 を介して折り曲げて図示外の接着剤を塗布して張り出し帯片 3 4 , 3 6 の両端部に固着し、これにより、第 2 のカバー 2 2 の周辺に接続帯片 3 0 及び長手方向端部が相互に固着されて 3 辺に沿って連なる張り出し帯片 3 4 ~ 3 6 からなる周辺囲い 2 3 c を形成するようにすればよい。

10

この後、開放状態のパッケージ 2 0 に図示外の郵送対象物を梱包する場合には、第 1 のカバー 2 1 の張り出し帯片 3 2 と第 2 のカバー 2 2 の張り出し帯片 3 5 とを接着固定すると共に、固定用帯片 1 3 4 , 1 3 6 を略直角に折り曲げた状態で第 1 のカバー 2 1 の張り出し帯片 3 2 のない 2 辺の縁部に接着固定するようにすればよい。

【実施例】

【 0 0 5 4 】

実施例 1

図 1 7 (a) は実施例 1 に係る情報収集帳としての御朱印帳の携帯時における外観を示す。

20

実施例 1 に係る御朱印帳は実施の形態 3 に係る情報収集帳を具現化したもので、図 1 8 に示すように、折畳シートを展開した各单位シート部に神社・仏閣の各御朱印を収集するものである。尚、図 1 8 に示すように、この御朱印帳を展示する場合には、第 1 のカバーの延長部を折畳シートの図中左上隅部に位置する単位シート部上に折り返して配置することで、展示したものが御朱印帳であるという種別や、カバーのデザインを楽しんでもらうようにすることが可能である。

【 0 0 5 5 】

実施例 2

図 1 7 (b) は実施例 2 に係る情報収集帳としての御朱印帳の携帯時の外観を示す。

30

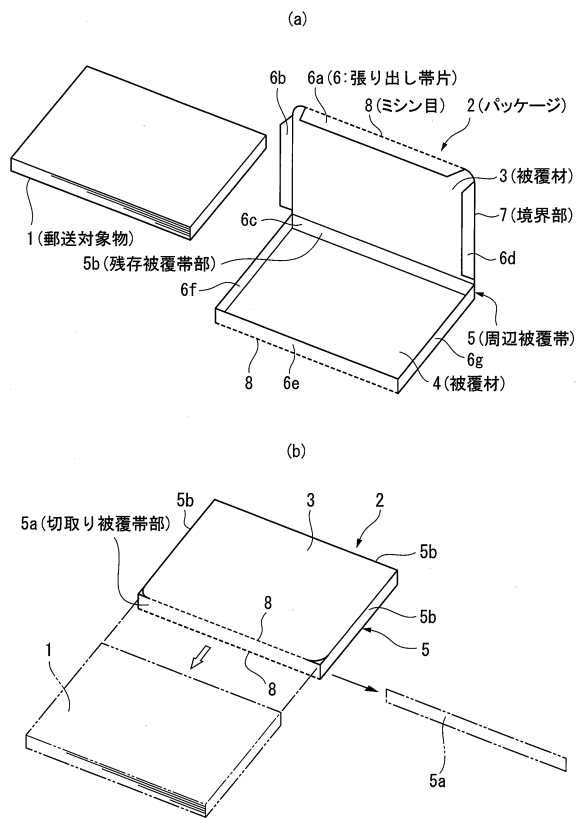
本例は、第 1 のカバーの延長部の外観が実施例 1 と異なるものであるが、装飾材としてユーザの好みに合わせた高級和紙を使用したり、装飾画像を印刷することで御朱印帳のデザインを存分に楽しむことも可能である。

【符号の説明】

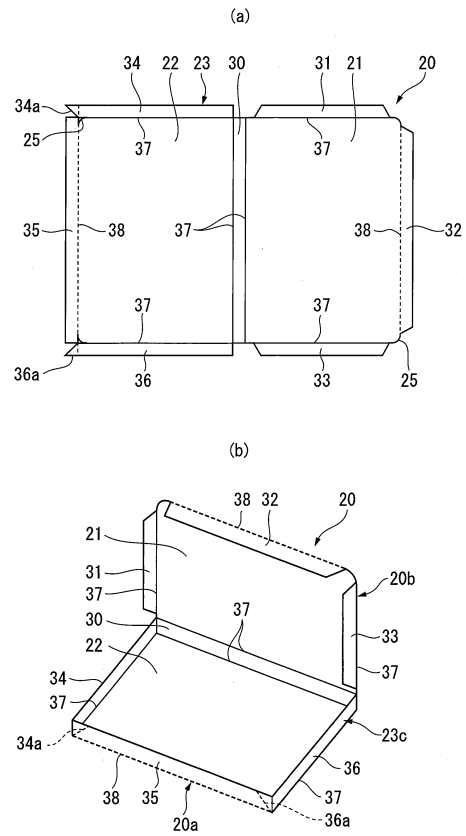
【 0 0 5 6 】

1 ... 郵送対象物 , 2 ... パッケージ , 3 , 4 ... 被覆材 , 5 ... 周辺被覆帯 , 5 a ... 切取り被覆帯部 , 5 b ... 残存被覆帯部 , 6 (6 a ~ 6 g) ... 張り出し帯片 , 7 ... 境界部 , 8 ... ミシン目

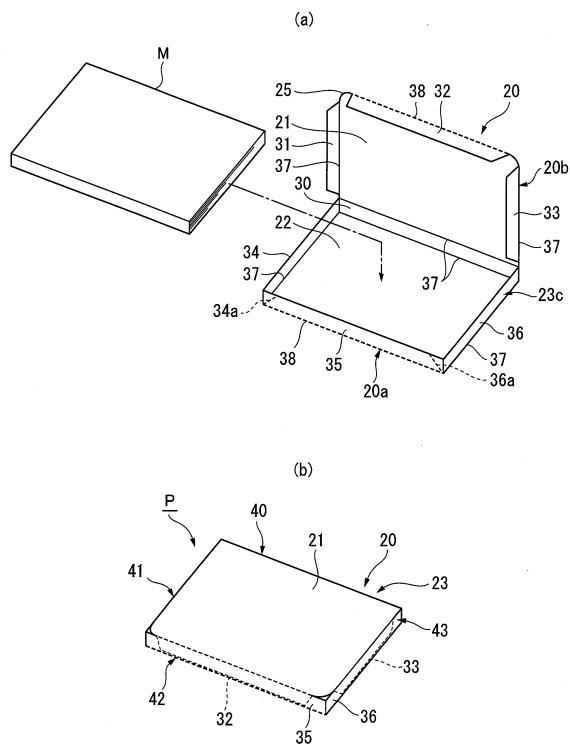
【図 1】



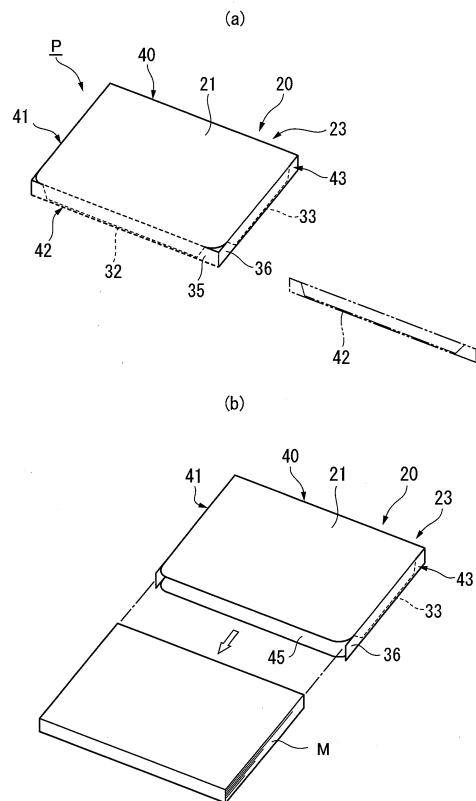
【図 2】



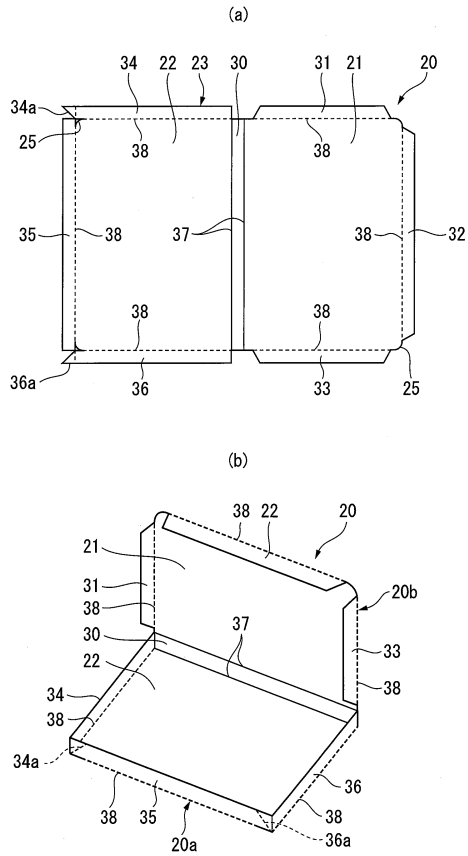
【図 3】



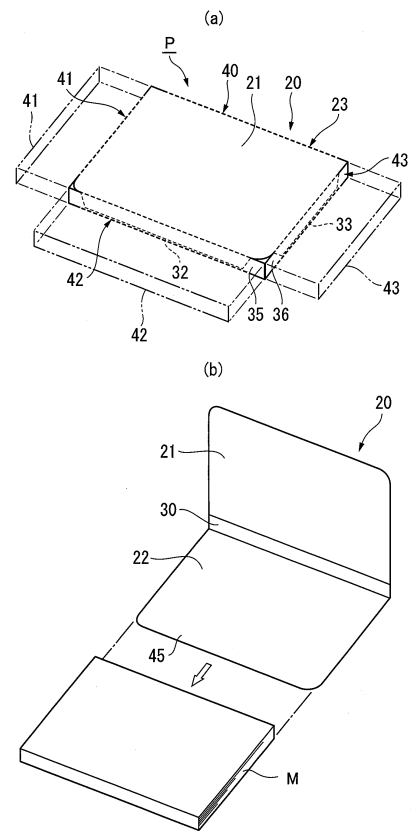
【図 4】



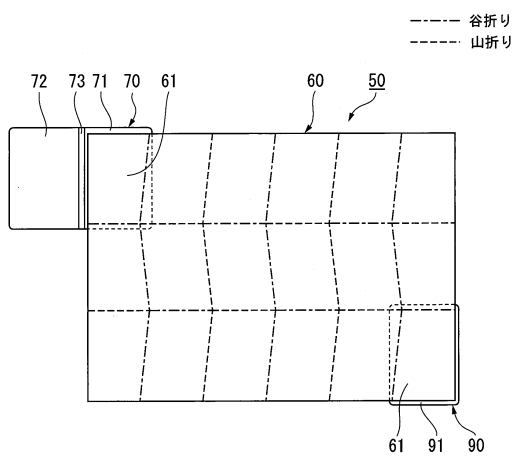
【図 5】



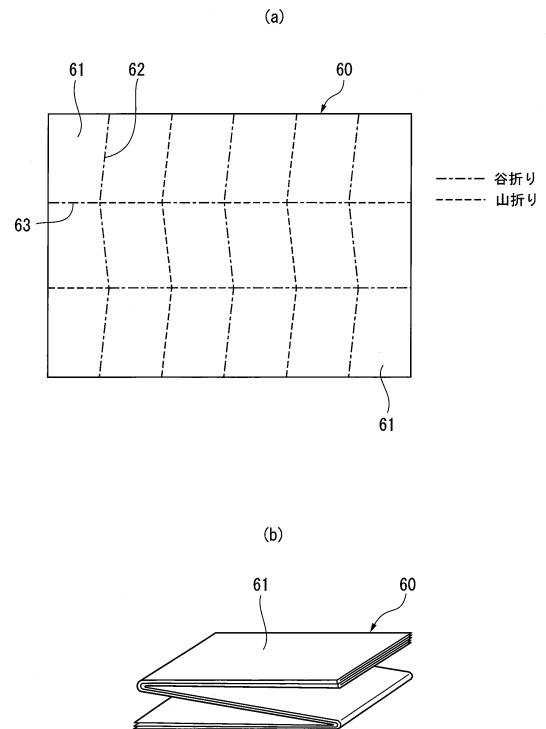
【図 6】



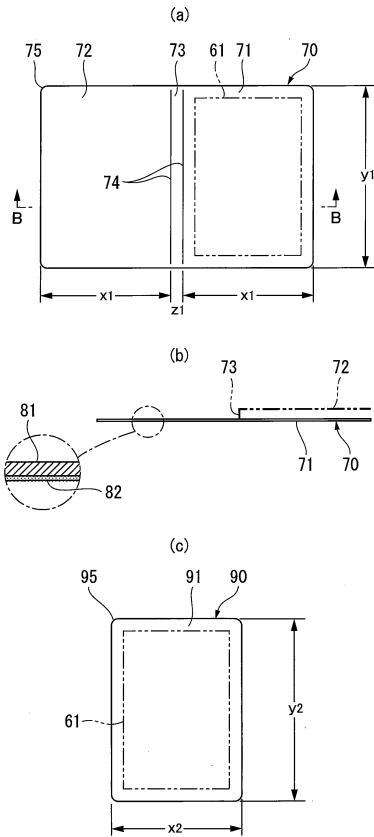
【図 7】



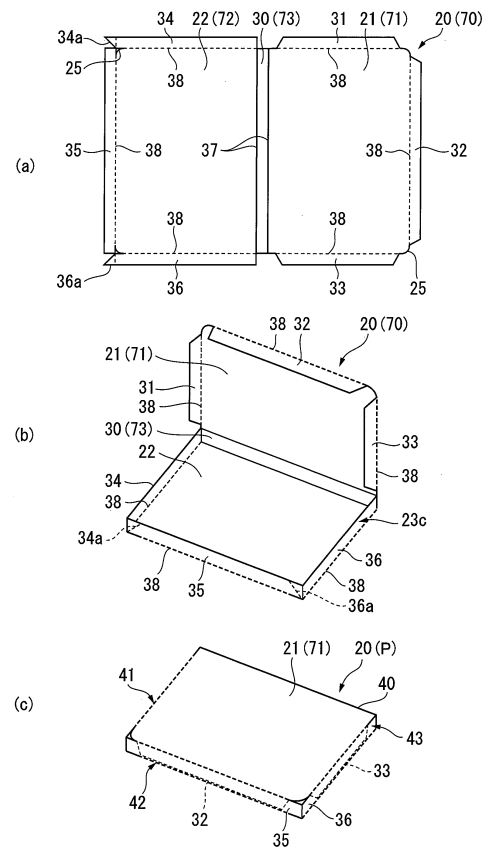
【図 8】



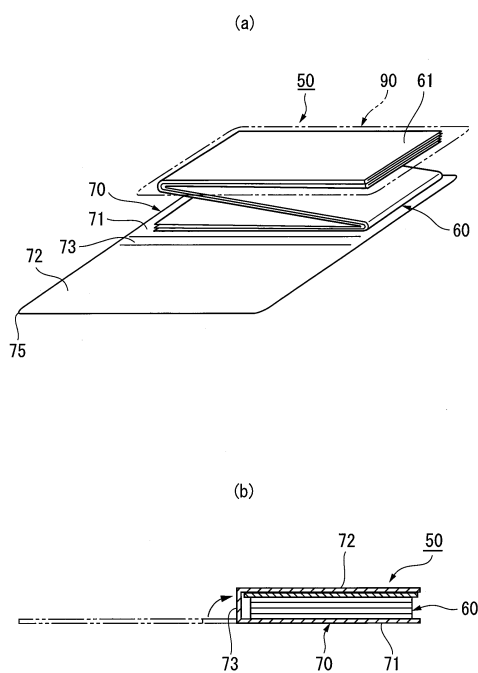
【図 9】



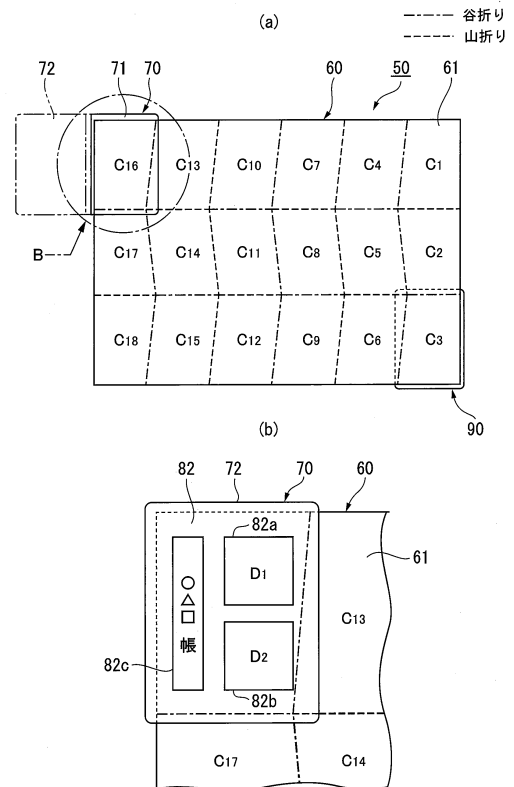
【図 10】



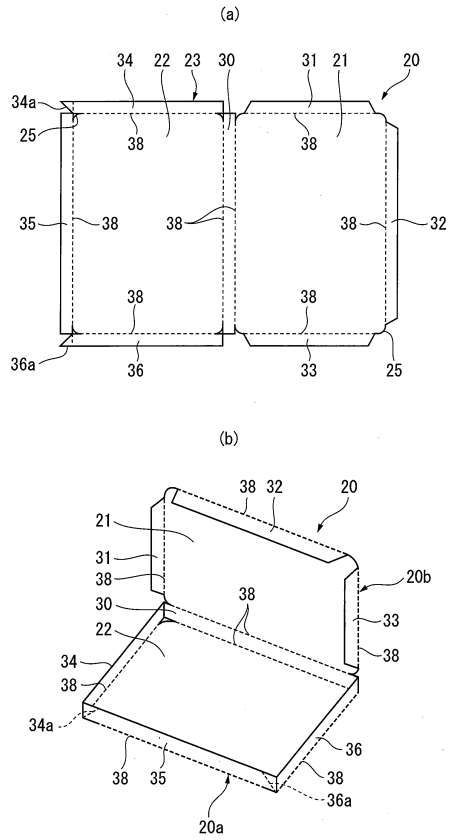
【図 11】



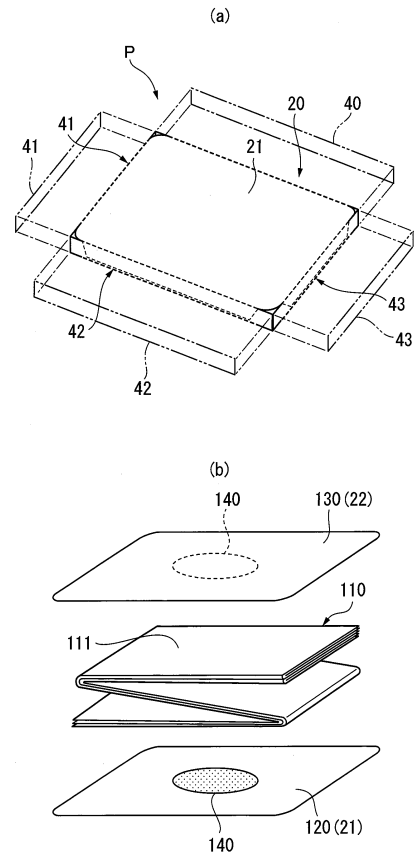
【図 12】



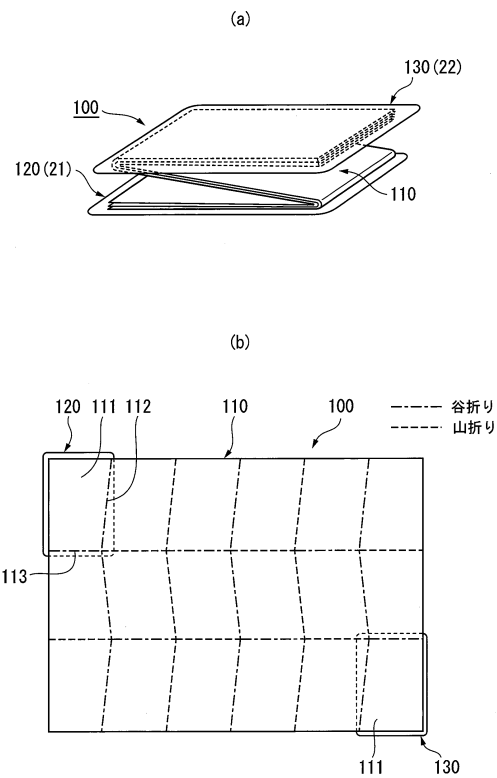
【図 13】



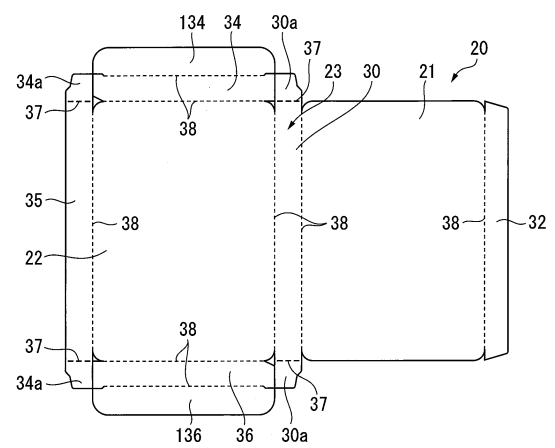
【図 14】



【図 15】

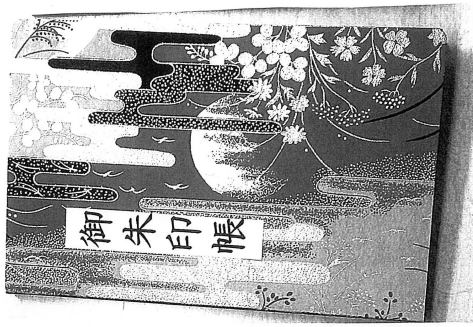


【図 16】



【図 17】

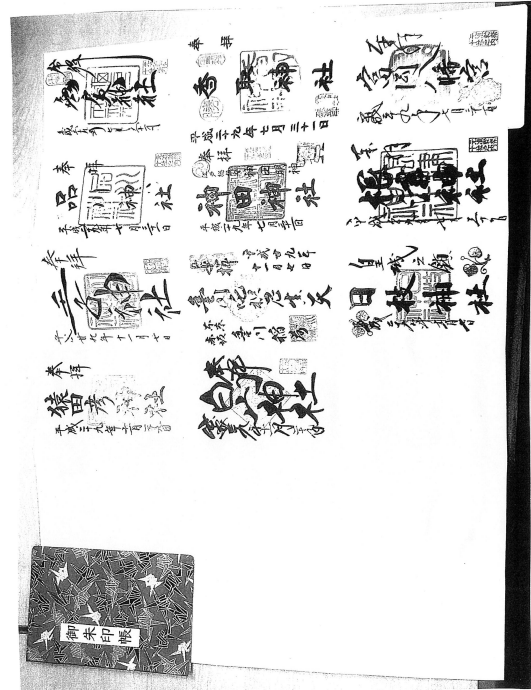
(b)



(a)



【図 18】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭62-203878(JP,U)
特開平06-293378(JP,A)
実開昭60-123372(JP,U)
実公昭29-005991(JP,Y1)
特許第4096072(JP,B2)
特開平07-040967(JP,A)
特開2016-132121(JP,A)
特開2013-159349(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 5/54

B65D 81/36